

平成19年度学生生活実態調査報告書の概要

平成20年3月

1. 調査の目的

本学学生の生活環境・学習環境の現状を把握することによって、本学学生の修学・福利厚生・課外活動等に役立つ基礎的な資料を得ることを目的とする。

2. 調査の対象

平成19年5月1日現在の各学部・に在籍する学生並びに各学府に在籍する大学院生を対象とした。ただし、休学者、外国人留学生及び社会人学生は除いた。

3. 調査の時期

平成19年7月

4. 調査の方法

無記名のアンケート調査により行った。学部学生の3分の1、大学院学生の3分の1を、無作為に抽出し、対象学生とした。担当係から調査票を配付し、回収を行った。

5. 回収結果

- (1) 対象者数 5,107人
- (2) 回収数 2,299人 (回収率 45.0%)
- (3) 回収内訳
学部学生 1,359人 (59.1%) 大学院学生 940人 (40.9%)

6. アンケート回答の結果概要

(1) 入学前の本学のイメージについて

「伝統のある大学」との回答が54.4%、次いで「教育・研究に優れている大学」が50.1%、「総合大学」が41.7%と高い。(複数回答)

「学際的」との回答が4.7%、次いで「国際性」が4.3%、「自由な校風」が4.0%と低い割合となっている。(複数回答)

(2) 入学の動機について

文系の学生では、「受験学力相応だった」との回答が最も高く45.5%で、次いで「地元だったから」が38.6%となっている。(複数回答)

理系の学生では、「興味のもてる専攻分野があった」との回答が最も高く47.3%で、次いで「受験学力相応だった」が42.2%となっている。(複数回答)

(3) 居住区について

学部学生の居住区は、東区が28.0%、中央区が14.5%、その他が13.1%の順であり、大学院学生の居住区は、東区が38.7%、その他が18.1%、西区が15.2%の順になっている。

伊都キャンパスへの移転により、西区の居住者の割合が前回調査の2%前後から10%~15%前後に増加している。

(4) 住居の形態について

アパート・マンションと自宅の比率は、学部学生が 66.6%と 27.2%、修士課程学生が 71.4%と 20.8%、博士（後期）課程学生が 75.9%と 15.4%となっており、いずれもアパート・マンションに居住している割合が高い。

学生寄宿舍の入居割合は、学部学生(3.3%)に比べ、修士(6.4%)・博士（後期）課程(5.3%)の学生の方が高く、前回調査から倍近くに増加している。このことは伊都キャンパスにドミトリー が新築されたことによるものである。

(5) 主な通学手段について

自転車の利用者は、学部学生が 62.1%、修士課程学生が 55.8%、博士（後期）課程学生が 51.3%で、いずれも半数を超えている。次いで、徒歩が、学部学生 32.2%、修士課程学生 31.6%、博士（後期）課程学生 39.0%となっている。

自動二輪車・原付バイクの利用者は、修士課程学生が 22.8%と高く、自動車の利用は、博士（後期）課程学生が 21.5%と高い。

(6) 通学時間について

学部学生の通学時間は、15 分以内と回答しているのが、5～6 割であるが、伊都キャンパスのみが 4 割を切っている。また、伊都キャンパスでは、2 時間以内という回答が 6.1%と他のキャンパスに比べて高い。

大学院学生も同様な回答となっており、伊都キャンパスでは、15 分以内が 37.1%で 2 時間以内が 5.2%の割合となっている。

(7) 学内食堂について

学内食堂の朝食での利用は、「まったく利用しない」が 91.2%と最も高く、昼食での利用は、「時々利用する」が 52.3%で高く、次いで、「いつも利用する」が 29.4%である。夕食での利用は、「まったく利用しない」が 72.3%と最も高く、次いで、「時々利用する」が 21.4%である。

主に利用する学内食堂は、伊都キャンパスの「ビッグどら食堂」が 87.0%と最も高く、次いで、病院キャンパスの「医系食堂」が 69.6%、六本松キャンパスの「学生会館」が 61.2%で高い。

改善点としては、「混雑を解消してほしい」が 52.8%で最も高く、次いで、「値段を安くしてほしい」が 51.4%、「メニューを増やしてほしい」が 41.9%となっている。（複数回答）

(8) 大学生活の満足度について

「満足している」、「まあまあ満足している」と回答した者で最も多いのは、理系の学部学生で 72.6%、逆に、最も少ないのは、理系の修士課程学生で 69.0%であった。

「不満である」、「やや不満である」と回答した者で最も多いのは、理系の博士（後期）課程の学生で 15.3%、逆に、最も少ないのは、文系の博士（後期）課程学生で 6.8%であった。

(9) 収入・支出の内訳について

学部学生の 70.1%、修士課程学生の 61.4%、博士（後期）課程学生の 32.9%が、家計支持者からの支援を受けている。

家計支持者からの支援を受けている額は、10 万円以上が最も多く、学部学生で 28.2%、修士課程学生で 34.3%、博士（後期）課程学生で 42.6%となっている。

次いで、6万円未満と答えたのが学部学生で22.7%、修士課程学生で25.3%、博士（後期）課程学生で30.7%となっている。

支出の内訳では、住居費が、学部学生で37.2%、修士課程学生で37.3%、博士（後期）課程学生で31.1%と高く、次いで、食費が学部学生で24.4%、修士課程学生で26.3%、博士（後期）課程学生で22.9%となっている。

(10) サークル活動について

学部学生の過半数は、何らかのサークルに加入しているが、修士課程学生は6割以上、博士（後期）課程学生は8割以上が、いずれのサークルにも加入していない。

学部学生では、女子のサークル加入割合が高いのに対し、修士・博士（後期）課程学生では、女子のサークル加入割合が低くなっている。

サークル活動の場所としては、「学外の施設を利用している」が最も多く、学部学生で35.5%、大学院学生で49.8%で、次いで、「学内の課外活動共用施設」が学部学生で27.7%、大学院学生で23.7%となっている。（複数回答）

(11) 施設の満足度について

「満足している」「まあまあ満足」と回答した者は、理系では、学部学生で39.3%、修士課程学生で40.9%、博士（後期）課程学生で46.7%となっており、「不満」「やや不満」と回答した者より上回っている。これに対し、文系では、「不満」「やや不満」と回答した者が、学部学生で53.5%、修士課程学生で49.6%、博士（後期）課程学生で50.0%となっており、「満足している」「まあまあ満足」と回答した者より上回っている。

設備充実を希望する施設として、回答しているのは、福利厚生施設（食堂・売店等）が最も多く、課程の別を問わず、半数近い学生が充実を求めている。「講義室・実験室・研究室」の充実については、博士（後期）課程学生が多く、約半数以上である。

(12) 図書館について

利用目的としては、学部学生は「試験勉強」が最も多く、文系で51.8%、理系で62.6%である。大学院学生は「学術図書（雑誌）の貸出」「学術図書（雑誌）の閲覧」と「文献複写」の回答が多い。

改善点については、「図書・雑誌、視聴覚資料の充実」が学部学生で15.2%、大学院学生で17.7%と最も多く、次いで、「開館時間の延長」が学部学生で14.9%、大学院学生で10.5%となっている。

(13) 卒業（終了）後の進路希望について

進路希望として「就職」と回答した割合は、文系では、学部学生で61.5%、修士課程学生で61.2%、理系では、学部学生で31.8%、修士課程学生で79.9%となっている。理系の学部学生では、「九大大学院」が43.2%で、「就職」と回答した者の38.1%を上回っている。

就職に関する要望としては、学部学生は、文系で「企業説明会の開催」が49.8%と多く、次いで、「ガイダンスの充実」が40.9%、理系では、「ガイダンスの充実」が39.7%、次いで、「企業説明会の開催」が36.7%となっている。大学院学生では、文系は「教員の助言・指導等」が34.4%、次いで、「特になし」が26.8%、理系では「企業説明会の開催」が43.7%、次いで、「ガイダンスの充実」が30.4%となっている。

(14) オフィスアワー,指導教員等の学習相談の満足度について

学部学生は,文系・理系を問わず,「どちらともいえない」が約7割で最も高く,大学院学生は,文系・理系を問わず,「満足している」「やや満足している」の回答が35.7%~56.8%で,学部学生19.8%より高い割合となっている。

最も満足度が高いのは文系の博士(後期)課程学生で「満足している」「やや満足している」を合わせると56.8%である。

(15) 課外活動支援の満足度について

学部学生・大学院学生を問わず,「どちらともいえない」の回答が62.7%~79.5%で最も高い割合となっているが,「満足している」「やや満足している」の回答が15.9%~19.0%で,「不満足である」「やや不満足である」と回答した者より上回っている。